



沖縄キリスト教短期大学 人文学部 英語コミュニケーション学科 学生募集

1. 入試日程

(2004年4月開学 新設の四年制大学です)

	推薦A日程	一般入試	推薦B日程
試験日	2004年1月15日(木)	2004年2月7日(土)	2004年3月10日(水)
出願期間	募集は終了しました	第1回受付 2003年 12月10日(水)～17日(水) 郵送受付の場合は最終日消印有効	2004年 3月1日(月)～3日(水) 郵送受付の場合は最終日必着
合格発表	1月22日(木)	2月17日(火)	3月12日(金)

2. 募集定員

人文学部 英語コミュニケーション学科 120名(男女共学)

沖縄キリスト教短期大学 英語科・保育科 学生募集

1. 入試日程

	推薦入学試験		一般入学試験	10月入学者 推薦入学試験
	A日程	B日程		
試験日	募集は終了しました	2004年 3月10日(水)	2004年 2月7日(土)	2004年 8月2日(月)
出願期間	募集は終了しました	2004年 3月1日(月)～3日(水)	2004年 1月5日(月)～8日(木)	2004年 7月13日(火)～16日(金)
合格発表	募集は終了しました	2004年 3月12日(金)	2004年 2月17日(火)	2004年 8月4日(水)

※ 社会人のためのAO型入試 4月入学（募集は終了しました）・10月入学[英語科のみ]…随时、予備面談受付

2. 募集定員

英語科100名(男女共学)
保育科100名(男女共学)

詳細は、沖縄キリスト教短期大学入試課までお問い合わせください。

TEL (098) 945-9782 ホームページ <http://www.ocjc.ac.jp>

編集後記

四年制大学設置認可決定。この報告をどんなに待ちわびたことだろう。関わって間もない私でさえそう感じるのでなく、ずっと関わってこられた方々、ご協力いただいた方々の喜びは一潮であると思います。変化の波に揉まれながらも、建学の精神を忘れず、明るい学園づくりに頑張っていただきたいと思います。また、学報もお陰様で今回50号を迎えることができました。素晴らしい諸先輩方の意志を継ぎながら、大学の情報を提供していきたいと考えています。今後ともよろしくお願ひいたします。（新米編集者）



沖縄キリスト教短期大学

2004年1月20日発行

沖縄県西原町字翁長777

☎(098)946-1240 FAX(098)946-1241

編集・発行 沖縄キリスト教短期大学学報委員会

URL <http://www.ocjc.ac.jp>

学報 第50号

◀旧沖縄キリスト教団首里教会
(本教会内に沖縄キリスト学院が創設される)

四年制大学設置認可記念号

西原キャンパス

記事内容	
★四年制大学設置認可の記者会見	9
★学生会長挨拶	9
★学内探訪	9
★新任教員紹介	10
★退職される先生	11
★計報	11
★キャンパスニュース	12
・学内の出来事	
・第39回キリ短祭	
★寄付感謝報告	14
★2002年度決算報告	15
★公開講座	15
★人事	15
★学生募集	16



沖縄キリスト教学院大学 DREAM号スタート

理事長 大城 進一

永年の努力が実り、昨年11月27日付で文部科学省から四年制大学設置認可がおりました。感慨一潮です。

ここに到るまでに10年近い歳月が流れてきましたが、その間、様々な経余曲折がありました。新設しようとした大学の立地場所、事務局体制、財源問題、学内一致態勢等、クリアすべき課題が多々ありました。学内外からも困難視する声も多かったです。理事会の中でもザックバランに語ると、「それはできないよ」という声も聞こえてきました。この声は、やる気がないという意味ではなく、先に述べた諸課題をクリアしなければ、実現できないよという激励の意を込めた発言であったと思います。私自身も内心、そのような気持ちになることもありました。しかし、理事会が四年制大学設置の方針を決定した以上、この積年の夢を現実のものにする責務を負っており、必ずや成し遂げなければならぬという信念を持ち続けてきたことが今日に至ったものと思います。

そこで、先の課題であった立地場所の変更、事務局体制の見直し、財源問題の再検討、学内の意思疎通を図るための作業を開始し、学長を中心とした「教学委員会」の精力的な働きによって、申請に必要な書類や資料の整備、それに連動して事務局長、各課長がそれぞれの業務を分担して準備業務をこなしてきました。特に財源については、自助努力と同窓会、後援会、企業、個人の支援があり、文部科学省が求める必要最小限度の額を確保することができました。その結果、四年制大学設置に向けた夢が現実のものとなりました。

「求めよ、さらば与えられん」という聖書のことばのとおり、関係者の祈りとその業に徹するというスピリットを貫けば、課題は解決でき、途は開けるということを学ぶことができました。沖縄キリスト教学院大学は2004年4月に開学することになりますが、これは新たなスタートであると同時に未来に向かってのchallengeもあります。教職員一丸となった態勢により、その「存在価値」(特色ある教育)を高めるように努めようではありませんか。

おわりに、理事各位、評議員各位、教職員、同窓会、後援会、御協力いただいた企業や個人の各位に感謝とお礼を申し上げて、新設大学DREAM号スタートの挨拶といたします。



沖縄キリスト教学院 の新たなる発展

学長 神山 繁實

昨年11月27日付で、沖縄キリスト教学院大学設置認可書が交付されました。本年4月から沖縄キリスト教学院大学・人文学部・英語コミュニケーション学科(入学定員120名)がいよいよスタートします。過去10年近い四年制大学設置の取り組みがありました。財政的目処付けができる本格的な作業に入ったのは2001年になってからのことです。このため、歴代の理事長、学長の諸先生方を始め理事、監事、評議員の先生方にもこの設置作業に関心をもってサポートしていただきました。これまで、西原キャンパスへの移転はもとより、短期大学の教育水準の向上・四年制大学設置準備のため、同窓会、教会、企業等その他多くの方々のご支援をいただき、学内の自助努力により資金調達ができたことも感謝です。更に、文教のまち西原との連携も深まりつつあることも、誠に感謝に堪えません。

大学設置申請に必要な大学設置の趣旨、寄附行為変更等に係る精緻を要する膨大な作業は、大学設置準備委員の教職員・関係事務職員、設置準備室メンバーの献身的な働きによって成し遂げられました。すべて手弁当で手作りの設置申請業務であったことは、特筆すべきことです。尚、学部学科の特性やユニークな教授陣については、本学のパンフレットやホームページをご覧ください。

日本における最近の大学教育の動きは、従来の「象牙の塔」的な研究を主体とした大学の在り方から、少子高齢化の波の中で大学の大衆化と生涯学習時代に即応できる態勢が要請されるようになってきました。すなわち大学所在地の地域社会から求められている人的資源の再開発、再教育のニーズに応えて教育・学習計画を立て、提供していく必要があります。近年、公私協調型であるとか、産学民公官の協力の必要性が強調されるようになってきました。この点でも本学と西原町との連携が密になってきました。本学の学生のみならず地域社会の人々と共に学ぶ意味と喜びを分かち合い、豊かな感性と知性を培い、共に地域社会に貢献し、特に、沖縄に負わされている諸問題・諸課題と真剣に取組み、国際化・高度情報化・21世紀の知識社会・民主主義社会を築き支え、真実の平和(シャローム)創造に貢献できることを願っています。



冒険へのいざない

— 21世紀の「学び」を求めて —

沖縄キリスト教学院大学 — この冒険的な教育プロジェクトに、栄える第一期生として、またパイオニアとして、皆様をお迎えしたいものと心より願っております。

21世紀は、すべてのものが激しく変動する世界です。何一つ確かなものない社会の中で、充実した意義ある人生を送れるよう、皆様一人ひとりに、しっかりと技能と知識を身につけていただきたいと思います。母国語である日本語と事実上の国際共通語となっている英語を、的確に、自在に活用する高度のコミュニケーション能力が今ほど必要とされる時代はありません。変化の度合いがますます激しくなる世界では、生涯にわたる絶えざる学習も必要となります。新しい情報や知識を取り入れ、これらを表現・発表するコミュニケーション能力は、そのための不可欠の道具でもあります。

しかし、道具 — 知識や技能 — の修得だけが教育のすべてではありません。この道具を正しく用いることのできる「人間」の育成こそ、教育の真の目的であると我々は考えます。これは沖縄キリスト教短期大学の建学の精神でもあります。神の創造された人類と世界は、いま様々な問題に直面しています。これらの問題に真剣に取り組み、その解決のため責任をもって行動する人材の育成を、我々は目指します。

An Invitation to an Educational Adventure

This is an invitation to become a member of the first class of Okinawa Christian University and be part of this pioneering educational project. Our goal is to help our students develop the skills and understanding they need to live fruitfully in this uncertain world and face an even more uncertain future. In the 21st Century, it is essential to be able to communicate effectively in your own language and the de facto international lingua franca, English. This ability to take in and present information and ideas is the foundation of the life-long education that is essential in our world of accelerating change. Yet acquiring these tools is only part of what education should be. True education is also concerned with the building of the character of the men and women who will wield these tools. In the Okinawa Christian University we will continue the tradition begun in the Okinawa Christian Junior College of demanding that our students take seriously their responsibility to their fellow human beings and to all of God's creation.

ランドルフ・H・スラッシャー (学部長)

Randolph H. Thrasher Ph. D. 略歴
2002年10月より沖縄キリスト教短期大学
英語科教授。前国際基督教大学語学科教授。
同大学外国語プログラム／英語プログラム・
ディレクター、大学院教育学科科長、国際涉外
部長を歴任。国際基督教大学名誉教授。



Department of English Communication /Okinawa Christian University

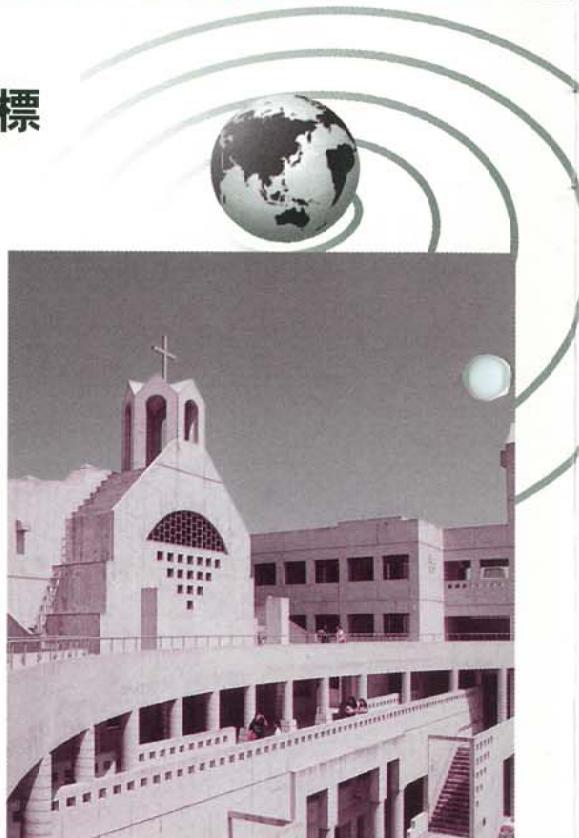
英語コミュニケーション学科の特色と魅力

A SMALL COLLEGE OPEN TO THE WIDE WORLD

英語コミュニケーション学科の教育目標

●人間社会を支えるコミュニケーション

私達の生活の中で最も重要なものの、それはコミュニケーションです。相手の気持や考えを理解し、自分の気持や考えを伝える、そして気持や考えをお互いに分かちあう――私達の日常生活や社会生活は、このようなコミュニケーションの上に成り立っています。ビジネスの世界や国と国との関係においても、コミュニケーションは決定的な役割を果たしています。



申請中または申請予定の免許・称号

- 中学校・高等学校教諭一種免許状（英語）
- 全国大学・短期大学実務教育協会の認定する称号

プレゼンテーション実務士

相手を理解し、具体的に分かりやすく説明し、説得するコミュニケーション能力、情報ツールを用いてさらに効果的に提示する能力を養成します。

上級ビジネス実務士

コミュニケーション能力をビジネスの世界で活用するために、ビジネスについての理解を深め、ビジネス実務能力を養成します。

上級情報処理士

コンピュータシステムをツールとして適正に効率的に駆使する能力を養成します。情報化社会に生きる「良き市民」として要求される基本的な教養も身につけます。

国際ボランティア実務士

国際ボランティアに関する基礎知識・専門知識に加え、それに必要とされる技術と国際的に通用する実務能力を養成します。



プログラム I：国際交流

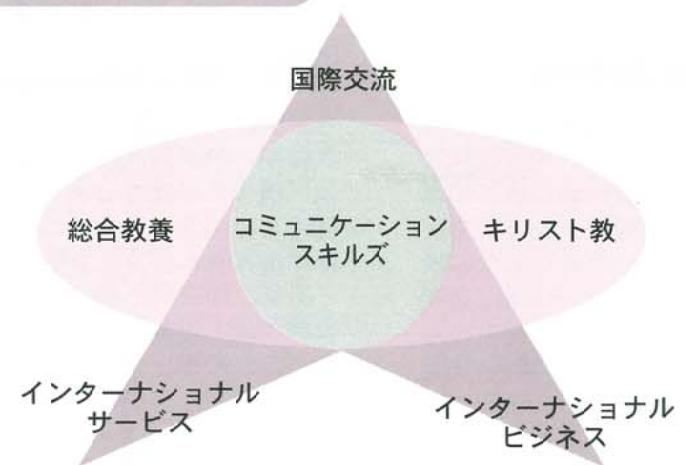
翻訳家、同時通訳者、逐次通訳者、会議通訳者、国際会議運営の専門家などとして、国際会議や国際交渉の円滑な運営を助け、国家間・異文化間の交流を促進する人材育成を目指します。

総合教養

日本語の表現方法やコンピュータ操作技術などの基礎的科目から、人間の心理、環境、生命、情報、国際関係などについて深く学ぶ科目を多数開設し、幅広い教養を身につけています。

国際交流

総合教養
コミュニケーション
スキルズ
キリスト教



インター
ナショナル
サービス

インター
ナショナル
ビジネス

キリスト教

本学はキリスト教の精神を教育理念に据え、国際社会に通用する高い倫理性を備えたコミュニケーションの育成を目指しています。この教育方針に沿って、聖書、キリスト教倫理等の充実した教科目を学び、豊かな人間理解と幅広い教養を身につけます。

●英語を駆使する、有能で分別ある異文化コミュニケーション

社会・経済・政治・文化などの国際交流の場において、事実上の国際共通語としての英語を自在に駆使する高度のコミュニケーション技術と、その技術を活かすための基本的な知識を身につけた“有能”な異文化コミュニケーションが必要とされています。本学科は、その技術や知識を平和で豊かな世界を築き上げるために正しく使う知恵、すなわち“分別”もある異文化コミュニケーションの育成を目標としています。

プログラム II インターナショナル・サービス

各国大使館や国連などの国際的機関、国際的な非営利団体（NPO、NGO等）で働きたいと思う学生のためのプログラムです。「国際機構論」「国際ボランティア論」などの科目に加え、「海外ボランティア実習」等を学びます。

コミュニケーション・スキルズ

英語を聞き、話し、読み、書くための基礎的な科目から、高いレベルの科目まで揃っています。更に、コミュニケーション入門、異文化コミュニケーション、異文化交渉演習、プレゼンテーション概論などのクラスを通して、コミュニケーションの理論と技術を身につけています。

プログラム III インターナショナル・ビジネス

国際的なビジネスの世界で活躍する人材の育成を目指します。「ビジネス・ライティング」などの科目で英語力の一層磨きをかけるとともに、「国際経済論」「国際企業論」「英文簿記」などの科目を履修し、国際経済の理論や技術を習得します。



人文学部 英語コミュニケーション学科

—新しい時代における高等教育のあり方を求めて—

四大設置準備委員会 比嘉健次郎

英語コミュニケーション学科の教育目標

交通手段の長足の進歩で、色々な国々、様々な文化をもつ人々との接触や交流が急速に増大しています。店頭にも世界各国の品々が所狭しと並んでいます。更に、目を見張らんばかりの情報機器の進歩のおかげで、大量の情報が瞬時に世界を駆け巡るようになりました。ヒト、カネ、モノ、そして情報が、国境を越え文化を超えて行き交うグローバル化・高度情報化社会の只中に私達は生きています。

このような時代に最も必要とされる能力の一つ、それは異なる文化、様々な慣習、多様な価値観を持つ人々の考え方や気持を十分に理解し、効果的にコミュニケーションをとる能力、すなわち異文化コミュニケーション能力ではないでしょうか。コミュニケーションの中核をなすのはやはり言葉であり、どの国の言葉にも同じように価値があります。しかし、グローバル化時代においては、“事実上”の国際共通語となっている英語がとりわけ重要な役割を演じるようになってきました。

英語コミュニケーション学科は、このような社会的要請に応えて誕生しました。社会・経済・政治・文化等の実際的・実務的な国際交流の場において、事実上の国際共通語としての英語を、効果的に分別をもって運用するコミュニケーション能力を修得させることを教育目標としております。有能で、分別ある異文化コミュニケーターを育て上げたいと思っています。

“事実上の国際共通語”としての英語に特化

18歳人口の減少とともに入学志願者数の激減で、各大学とも学生確保に必死になっております。特に、語学・文学系の学科の中には定員割れを起こすようなところもあるほどです。全国の多くの英語（英文）学科が、国際コミュニケーション学科、国際文化学科、あるいは英米言語文化学科と名称を変更し、カリキュラムも改訂、学科をより魅力的なものにするための努力を重ねています。

本学の英語コミュニケーション学科も、既設短期大学の英語科を母体に誕生した学科です。しかし、他大学の英語系学科とはかなり違うユニークなカリキュラムを持っています。国際コミュニケーシ

ョン学科あるいは国際文化学科とせず、あえて英語に特化しました。英語運用能力の向上には、英語関連科目をより多く設置し、より集中的に訓練する必要があると考えたからです。学生の一人一人が、確かな英語力を身につけて卒業することを期待しています。

英米言語文化学科とも違います。英米の言語や文化を学ぶことが本学科の目標ではありません。事実上の国際共通語としての英語を学びます。英語を母国語としない多くの国々の人々とも、英語を“道具”として使いながらコミュニケーションをとる能力を養います。学習対象の英語を、英米人の母国語としてではなく、事実上の国際共通語と位置付けることによって授業内容や方法、また学生の学習態度にも特色が生まれてくるものと考えます。

英語を「学ぶ」から英語を「使う」へ — 三つのコース —

先に、事実上の国際共通語としての英語を“運用する”と書きましたが、これは、国際コミュニケーションの道具として英語を“使う”ということです。大まかに言えば、最初の2年間で英語運用能力の基本を修得し、3・4年次で、その能力を実践的な分野で活用するための知識や技術を学びます。さて、どのような分野で活用するか。私達は、大きく三つの分野を考えています。

まず、国家間・異文化間の交流を一層促進し、国際会議・国際交渉等の円滑な運営に寄与する職業があります。翻訳者、（同時・逐次）通訳者、会議通訳者、国際会議等の専門業者などが含まれます。

次に、ビジネス界への進出が考えられます。国内・国外であるとを問わず、また規模の大小を問わず、いまや殆どの企業が、種々の局面において“国際化”しております。国際共通語としての英語の運用能力への需要がますます高まる一方です。

三つ目が、国際的な公的機関や国際的非営利団体（NPO、NGO等）での業務に関わる分野です。国際連合、各国大使館、領事館などでの職務に加え、最近では県レベル・市町村レベルでの国際的業務もますます増えてきております。国際的ボランティア活動の重要性も一層高まりつつあります。

以上三つのコースに加え、教職課程を設置しました。中学校・高等学校一種（英語）免許状の取得が可能です。英語コミュニケーション能力と国際政治・国際経済などの社会科学的素養を豊かに兼ね備えた英語教師を養成します。

全国大学・短期大学実務教育協会の認定する称号も取得できるよう教育課程を編成しました。履修方法を工夫すれば、プレゼンテーション実務士、上級ビジネス実務士、上級情報処理士、国際ボランティア実務士のいずれかが取得できます。英語を実践的な場面で活用する際に大きな助けとなるはずです。

新しい時代に求められる高等教育

本学院は建学以来リベラル・アーツ・カレッジとしての伝統を守り、教養教育を重視してまいりました。道具として英語を使うことを強調する英語コミュニケーション学科の教育目標と教養教育との兼ね合いはどうなっているのでしょうか。

他者を正しく理解し、自己を的確に表現し、そして他者を効果的に説得する能力、つまりコミュニケーション能力の育成は教養教育の根幹であると私達は考えました。リベラル・アーツそのものが、このような考え方方に立っています。自由人にふさわしい全面的教養を育てる7つの科目のうち、最初の3つ、すなわち文法、修辞学、弁証法は言葉の正しい効果的な使い方を学ぶ科目であり、他ならぬコミュニケーション能力の育成を目指したものでした。

ここ10年来、教育目標・教育課程について、私達は真剣な討議を重ねてきました。大学審議会が2000年に出した答申の中に、「グローバル化時代に求められる教養を重視した教育の改善充実」と題する一章があります。その中で答申は外国語（とりわけ英語）によるコミュニケーション能力の育成、自らの文化と多様な文化に対する理解の促進、情報リテラシーの向上、高い倫理性の育成などを謳っております。本学科の目指すところと一致する点が多いので意を強くしました。

有能なコミュニケーターになるためには、自らの文化と異文化に対する理解が不可欠です。文化の理解を深める科目を十分に設置しました。効率的なコミュニケーションを行うためには、情報機器の操作に習熟していることも必要であり、そのための科目も充実しました。また、修得した知識や技能を正しく使う智恵を養うこと、つまり、“分別ある”コミュニケーターの育成をめざしておりますが、これは「答申」のいう“高い倫理性の育成”に他なりません。

教養重視の答申と本学科の進むべき方向が、図らずも軌を一にすることになったわけです。私達は、従来の大学教育のなかに牢固として存在する一般教育—専門教育という二分法を捨て去り、15のクラスターによる全くユニークな教育課程を編



成し、高等教育における新しい試みに挑戦します。

建学の精神の具現化—世界と沖縄のために

国家間・異文化間の交流・交易・接触が急速に進展している一方で、国と国、民族と民族、文化と文化の間の摩擦・軋轢・紛争が世界の至る所で頻発しています。グローバル化の持つ負の側面も決して無視することは出来ません。異なる文化や多様な価値観を共感的に理解し、その交流・接触を一層促進するとともに、摩擦、軋轢、紛争を平和的・創造的に解決するために尽力する人材が今ほど必要とされている時代はありません。

神と人とに仕え、世界の直面する根本的な問題に深く関わりつつ、共に生きる道を求める“平和を創り出す者”的の育成、これが本学院の建学の精神です。私達は、地球社会の共存・協調・共生・発展に積極的に関わり、その一員として有意義な貢献のできる、高度の異文化コミュニケーション能力と高い倫理性を兼ね備えた人材、すなわち有能で分別ある異文化コミュニケーターを育成し建学の精神の具現化を目指します。

英語コミュニケーション学科の誕生は、沖縄県にとっても重要な意味を持っております。沖縄県は、東アジアの中心に位置し、中国・東南アジア諸国とは長い交易・交流の歴史があります。第二次大戦後は、1972年の本土復帰まで米国の統治下に置かれるという不幸な歴史もありました。また多くの県民が海外に移住しており、国際性が沖縄県の特性の一つとなっています。この歴史的・地理的特性を活かして、国際交流の拠点を形成することが沖縄県の長期的目標の一つとなっています。本学科は、語学力と国際感覚豊かな人材の育成を通して、その目標達成の一翼を担いたいと思います。

内閣府の『振興計画』に盛られた諸計画の中にも、高度の英語運用能力と豊かな国際感覚に恵まれた人材の育成を必要とする計画が多数あります。例えば、コンベンション施設等の基盤整備を図り、国際会議等の誘致に努めるというプランがあります。そのためには、同時通訳者、司会通訳者、国際会議の運営を支える専門家の育成が急務です。情報通信関連産業の集積地として国際的な情報通信ハイブの実現を図る、という計画もあります。情報通信関連産業と英語運用能力との密接な関係は、つとに識者の指摘しているところです。国際的なりゾート地形成のためにも、平和交流の拠点形成のためにも、異文化コミュニケーション能力を備えた人材が多数必要です。世界最高水準の自然科学系大学を創設する計画が目下進行中ですが、世界各国から教員・学生を集め、英語を学内の“公用語”とするのことです。沖縄県にとって、英語コミュニケーション学科の重要性はますます高まるものと期待されます。



奨学金贈呈

ハワイ・ホノルル在住のJulia Keiko Higa Estrella様より12月8日(月)に本学の四年制大学のスタートを祝って、お母様(Matsu Higa Matsui)のご意志で「貧しい学生で、勉学に意欲のある者」に奨学金100万円と、さらに初期移民研究の為に本学の研究者に100万円が贈られました。



Julia Keiko Higa Estrella 様より奨学金を受け取る大城理事長

寄付金贈呈

東京都の鈴木晶子様から四年制大学設立のために200万円のご寄付がありました。ご寄付は、鈴木様のご令兄、故鈴木隆氏を記念して贈られたもので、四年制大学設立認可直前の11月25日にお受けしました。

故鈴木隆氏は昨年3月ご病気のためお亡くなりになりましたが、仕事の関係で沖縄に赴任されたことがあり、心の底から沖縄を愛しておられたようです。また、熱心なクリスチヤンでOIC教会(本学チャペル)礼拝に出席されたこともありました。前学長原喜美先生とは国際基督教大学での師弟関係にあり、原先生をとおして常に本学へ強い関心を寄せておられました。この度のご厚情に対して深く感謝し、神様からの恵と平安を心からお祈りします。

四年制大学設置認可茶話会

12月5日(金)夕刻、本学内において、四年制大学設置認可茶話会が開かれました。会場には歴代理事長、学長を始め、学校関係者の皆様にご多忙の中お集まりいただきました。皆様のご挨拶の中で、四年制大学になるまでの長い道程、これまで積み上げてこられたご努力を楽しく語っていただき、学院を育てていただいたご尽力に敬服いたしました。今後も本学を支えて下さいますよう、よろしくお願い申しあげます。



大森泰男第2代理事長の挨拶



平良修第2代学長の挨拶



瀬高理事(1期生)と金城重明第3代学長



亀川栄一第5代理事長と懇親

四年制大学設置認可の記者会見が行われました

11月27日の四年制大学(沖縄キリスト教学院大学 人文学部 英語コミュニケーション学科 定員120名)設置認可を受け早速、12月1日午後3時30分、沖縄県庁記者クラブにて記者会見が行われました。

本学院から、大城理事長、神山学長、Thrasher教授(学部長)、比嘉教授、与儀事務局長が出席しました。

沖縄キリスト教学院大学は、来年4月1日に開学します。



記者会見の模様

学内探訪 四大設置準備室

★準備室からひとこと～金城繁正

四年制大学設置が実現し、本当に嬉しいのひとことです。微力ながら、このような大きなプロジェクトに携わることができたことを感謝します。



新研究室

ちいさな島にある世界に開けた大学

学生会長 高本 純



「ついにこの結果が聞けた」多くの人々の願いや苦労によって、ついに沖縄キリスト教学院大学の開学です。約10年前に出た四年制大学構想が、まさか自分の在学期間に実現するとは、非常にうれしく思います。さて、学部なのですが、「人文学部／英語コミュニケーション学科」ということで、「英語のカリキュラム」と「英語のコミュニケーション」の二大看板を掲げて、これから国際化社会に通用する人材を育成していってほしいです。

私たち46期生は、来年の3月に卒業を予定しています。私自身、この二年間沖縄キリスト教短期大学で、カリキュラムまたキャンパスライフで多くの素晴らしいことを学び、経験することができました。私たちはちいさな島にある世界に開けた大学を、旅立っていきます。私たちの代は、二年後からしか編入ができないそうで…。二年後、または近い将来このキャンパスから卒業していく仲間の多くが、このキャンパスへ戻ってくることを願っています。また、来年以降新しく「沖縄キリスト教学院大学」へ多くの新入生が入ってくるはずです。この学生が、この新大学に入学・卒業する学生が、社会で活躍、貢献していくような人物であることを願っています。この大学が、そういった学生を大勢育成していく学校だと信じています。本当に、おめでとうございます。



新任教師紹介



「触発される講義をめざして」

総合教育系 近藤功行教授

川崎医療福祉大学医療福祉学部医療福祉学科助手、講師、志學館大学法学部法律学科助教授を経て、2003年4月からキリ短へ。医療・保健・福祉をベースにしたものを、学生と一緒に学び研究していきたいと考えている。この研究の一歩手前となる、読む、書く、まとめるという作業に関する『表現技法』も担当している。

触発される講義は難しいが、大事だ。沖縄を去ってすぐの山口大学教養部で550人、前者の大学で700人という大ホールでの講義もあった。今、他県で1年に1度ある300人の集中講義が最大の受講人数だ。さて、私は1986年から開始している、琉球と薩摩文化が融合する与論島での調査研究をまとめている。時間はかかる。この原稿依頼を受ける数日前に、かまどさんも他界した。今、受講しているキリ短生より長生きしたいものだと、学生らには伝えている。



「キリスト教に関心をもつあなたへ」

保育科 川西康裕教授

私が担当している「社会福祉」は宗教と思想、信条を問わずすべての人々にかかわっています。また民間社会福祉事業の経営と実践は一定の要件を満たせば誰もが担うことができます。そのしごとが「ひとりひとりをいたせつにする」こと以外のいかなる信条にも立ちえないがゆえです。

さて、キリスト教主義に立つ福祉団体ではたらくキリスト者には、宗教を超えて皆としごとにはげむこと、まずキリスト者同士が仲良くすること、この2つが求められます。そしてこれができるようになるためには、学生時代から、キリスト者と求道者がともに聖書を読み語り祈りあう習慣をもつことが有効だと私は思います。沖縄の他大学ではそのようなグループが起こされ、互いに連絡をとりあっています。

さあ、あなたが、はじめのひとりになってくださいませんか。



「よろしくお願いします」

総合教育系 城間仙子講師

こんにちは。10月1日より総合教育系の専任講師として、2003年度後期は「秘書学概論」、「観光実務」、「マルチメディア演習」、「事務管理」、「同時通訳（公開講座）」を担当させていただいている。本学ではこれまで也非常勤講師として4年半お世話になって参りましたが、専任となるとまた環境もガラリと変わり、少し戸惑いつつも新鮮な気持ちで教壇に立っている毎日です。来年度には四年制大学の開学も控えた節目の年に沖縄キリスト教短期大学に深くかかわることができ、大変光栄に思っています。学生・職員の皆様、よろしくお願ひいたします。



「生かされている喜びに感謝」

保育科 大山伸子助教授

40歳で私は再び学業を志し上京、子連れの大学院生になりました。当時4歳の二男はストレスから不登園児、10歳の長男は学校で「いじめ」にあり、学業の厳しさに私も卒業が危ぶまれるという状況でした。この厳しい局面を乗り越えられたのは、多くの方々の愛情に支えられたお陰であり、感謝の気持ちで一杯です。私のささやかな晚学の経験が、本学の学生と共に、共感でき、何かお役に立てればと願っています。

専門は音楽、特技は自称ボランティア活動。自分が生かされている喜びに感謝し、これまでお世話になった方々へ少しでもご恩返がしたいと思い、地域活動やPTAに関わり始めましたが、活動の一つ一つが私自身の“心の栄養”になっていることを、日々、実感しています。本学で勤務させていただくことに感謝し、地球の未来を担う心豊かな人材を育てるお手伝いができるれば、この上ない喜びです。



「Nice to be back in Okinawa」

英語科 Lyle E. Alison教授

沖縄を1年間離れてアラスカのイヌピアックエスキモーの人々の中で、スクールカウンセラーとして働き、その後沖縄に戻れたことを嬉しく思います。沖縄は私の故郷であり、新しい四年制大学（沖縄キリスト教短期大学）で教えることは、私が10年以上も前から夢見ていたことでした。

この新しい大学は、沖縄に住む若い人々に対して、国際社会の創造的な市民になる大きな機会を与えることができると信じています。

私の英語学習研究センター（C R E L L）における活動も、学生たちが日英両語を学び、それらを説得的、効果的に使おうとする意欲と能力を高めることに役立つことだと思います。

キリスト者として私たちは、常に私たちの内にある神聖なものに気付かなければならないと思います。このような信念で人々に接することによって、私は周囲の人々が世界平和運動や人類の幸福に関わる手助けができると願っています。身の回りの多様性の中に調和を求めつつ、異なる文化や価値観に共感することによって、われわれは神の子としての認識を深めることができます。この素晴らしい冒険に加わることは、何という喜びでありますか。

It is a pleasure to return to Okinawa after being away for one year teaching with the Inupiaq Eskimo people in Alaska. Okinawa is my home and working for the new four-year university (Okinawa Kirisuto kyo Gakuin Daigaku) is something that I have dreamed about for more than ten years.

I believe that the new school will give even greater opportunities to the young people living in Okinawa to become more productive citizens of our global community.

Working with the Center for Research in English Language Learning (CRELL), I hope to be able to provide leadership that will allow our students to develop the ability and desire to learn and use both Japanese and English persuasively and effectively.

As a Christian I believe that we must always be aware of the sacred within us. With this attitude I hope that I might have some influence on those around me to commit themselves to the cause of world peace and the well-being of humanity. By seeing harmony in diversity and being sympathetic to the different cultures and values around us, we can grow and prosper in knowing that we are children of God. What a joy it is to be a part of this wonderful adventure.

退職される先生



英語科
宮国薰子助教授

1997年4月より本学にて勤務していただきました宮国薰子先生が、9月30日付で退職されました。現在はミシガン州立大学大学院へ沖縄県国際人材育成財團派遣として留学され、頑張っていらっしゃいます。

マルチメディア演習や同時通訳の授業等、学生達からもわかりやすく、とても頼りになる先生だったと聞いています。また、学報委員も務めていただき、いろいろな面で助けていただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

訃報

新垣美智孔先生（保育科講師）が、病氣療養中のところ、2003年5月18日にご逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。



美智孔先生を悼む

首里キャンパス時代から共にし、やさしさ思いやりあるお人柄も相俟っていまだに姉妹を失った気持ちを抱かせる。

エピソードの尽きない美智孔先生であった。音楽を心から愛し、音へのこだわり等専門については譲歩しない一徹さを持ち合わせて講義に取り組んでおられた。音楽リズムを担当して頂いて、「楽しい授業」「保育科の学生になった気持ちになれる授業」と学生達から慕われた教師である。また、県の保母試験委員や現職の保育士・教師の講習、研修など引き受けられ活躍下さっていた。

夫の新垣氏に送り迎えされ通勤するまで体調を崩されていたにも関わらず、入試までは責任を果たしたいとの強い申し出を受け、その後休んで頂いたのではあるが・・・残念でならない。ご冥福を祈ります。

山城真紀子 保育科教授



キャンパスニュース

2003年

4月24日（木）

ユルゲン・モルトマン（ドイツ、チュービンゲン大学教授）講演会
人類に希望はあるかー21世紀の沖縄への提言
演題：「自然の破壊と癒し」



5月 3日（土）

沖縄キリスト教短期大学 保育科講演会
文学博士 石垣 恵美子氏（ハワイ大学教育学部客員教授）
演題：「今、なぜレッジョ・エミリアなのか：保育の展望と課題」

5月13日（火）

～
15日（木）

2003年度 新入生オリエンテーション・キャンプ on 渡嘉敷島
恒例の2泊3日の新入生オリエンテーション・キャンプが渡嘉敷島の独立行政法人国立沖縄青年の家で開催されました。
このキャンプの目的は、2年間の学生生活を有意義に送ることができ、また本学の学生として必要な事項を学ぶことになります。このために礼拝、イエス・キリストとの出会い、アカデミック・オリエンテーション、各科集会、アドバイザー・アワー、ハイキング、海洋研修等内容豊かなプログラムに沿って行われました。



6月13日（金）

保育科の大山伸子助教授が作曲家・宮良長包の生誕120年を記念して、『宮良長包作曲全集』を発刊されました。
同全集には、従来長包の作品として認められてきた42曲のほかに、彼の処女作といわれている「笛」など60曲を含め、102曲が収められています。うち30曲は、楽譜を新たに起こしたもので、「朝暁の光」のように、その存在さえほとんど知られてなかつた幻の8曲も含まれています。
大山助教授は、長包の県師範学校付属小学校時代の教え子や長包の家族ら100人以上に聞き取りを行い、彼らの記憶に残っていた歌を録音して楽譜に起こした。同全集は琉球新報社から出版されている（2,800円）。

6月16日（月）
30日（月）

2003年度前期 奨学金授与式（本学チャペルにて）

"

6月30日（月）
～
7月 4日（金）

西原町中学生体験活動 チャレンジウイーク
毎年恒例のチャレンジウイークが今年度も実施されました。本学も協力事業所・団体となり、西原中学校より8名、西原東中学校より2名、計10名の生徒が国際交流のテーマで1週間、交流や職場体験を行いました。

7月12日（土）
9月 6日（土）

オープンキャンパス 2003

"

7月28日（月）
～12月まで

英語科の野崎教授が沖縄タイムス紙の文芸欄コラム「唐獅子」を12月まで担当されました。

9月 1日（月）

9月 6日（土）

名誉教授称号授与

真栄城隆司元保育科教授に名誉教授の称号が授与され、本学理事長室で授与式が行われました。

席上、先生から四年制大学のためにと100万円のご寄付があり、理事長に目録が贈呈されました。



特別公開講座

高崎 正名氏

（元大和ヨーロッパ・バンク兼アイルランド（ダブリン）支店長）

考察

「沖縄金融特区～アイルランド国際金融センターから説き起こす～」



「未来予想図～描け!! 夢をつかむ地図 宝物を探しに～」

第39回キリ短祭実行委員会
実行委員長

知花 愛実（英語科）

私が初めて学生活動に参加したのはキリ短入学してからです。それまで生徒会活動さえ経験の無かった私が第39回キリ短祭の実行委員長を務めることになりました。夏休み開始と同時にキリ短祭に向けての活動が始まり、90余人の実行委員を動かすこと、キリ短祭を成功させることなどと今まで感じたことの無いプレッシャーに押され、不安と焦りでいっぱいでした。しかし、準備を進めていくにつれ、「未来予想図～描け!! 夢をつかむ地図 宝物を探しに～」というテーマのもと、実行委員達の思いがひとつになり、素晴らしいキリ短祭になることを確信しました。キリ短祭当日は残念ながら悪天候ではありましたが、大きな事故も無く、楽しんで終えることができました。このキリ短祭を通して、私は総括することの難しさや、社会における学生の立場など多くのことを学ぶことができました。また、私だけでなく、実行委員ひとりひとりもチームワークの大切さ、素晴らしさを学び、



私達のこれから的人生に影響を与えるよい機会になったと思います。

空き時間はミーティングや作業に追われ、辛く苦しく、「休み時間に休めてない!!」と叫んだ日もありましたが、それも今ではいい思い出です。キリ短祭という一大イベントを、多くの仲間と共に乗り越えてきたこの4ヶ月間は、私の未来予想図にしっかりと刻まれたことだと思います。



